

第35回
新城

新能

演目

能 狂言 仕舞 連調 連吟
船弁慶 文荷

「新城薪能」がもっと楽しめる
演者が語る薪能

演目の内容や見どころについて演者が解りやすく解説します。

【実施日】8月22日(土) 11:00～11:50

【場 所】新城文化会館 展示室

参加
無料

令和
八年

令和
八年

8/22(土)

開場 12:30
開演 13:00
終演 15:30(予定)

新城文化会館 小ホール

全席自由 入場無料 満席の場合はご入場できない場合があります

お問い合わせ

新城
文化会館

☎0536-23-2122

8:30～
17:00

〒441-1381 愛知県新城市字下川1-1 <https://www.shinshiro-bunka.jp/>

*休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)

アクセス

- 公共交通機関でお越しの場合:JR飯田線新城駅から徒歩10分
- 車でお越しの場合:新東名高速道路「新城IC」より10分、東名高速道路「豊川IC」より20分、豊橋より50分
- 駐車場のご案内:駐車場180台

主催 / 新城市・新城教育委員会 主管 / 新城地域文化広場・新城薪能実行委員会 後援 / 新城市文化協会

第三十五回 新城薪能 番組表

◆十三時

火入れ式

仕舞

連調

連吟

◆十三時三十分

狂言

文荷

◆十四時十分

休憩

◆十四時二十分

能

船弁慶

◆十五時三十分

終演予定

進行により、時間が前後する場合がありますのでご了承ください。

船弁慶

ふなべんけい

●登場人物

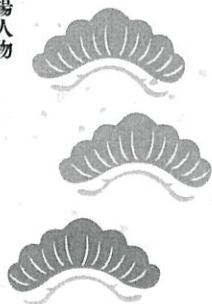
前シテ 静御前 子方 源義経

ワキ 武蔵坊弁慶

ワキツレ 義経の従者

アイ 船の船頭

後シテ 平知盛



文荷

ふみにない

●登場人物

太郎冠者

次郎冠者

主人

後見



能

ふなべんけい

●登場人物

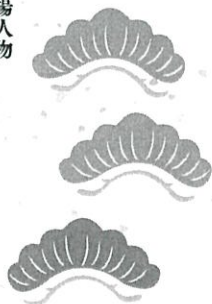
前シテ 静御前 子方 源義経

ワキ 武蔵坊弁慶

ワキツレ 義経の従者

アイ 船の船頭

後シテ 平知盛



狂言

ふみにない

●登場人物

太郎冠者

次郎冠者

主人

後見



前場

兄・頼朝と不和になり、西国(九州)へ落ち延びる源義経一行は、摂津の国大物浦(現在の尼崎市)に到着します。

一行の中に静御前の姿を見止めた弁慶は、女性を連れての旅は危険だと判断し、愛妾の静御前を都に帰すよう義経に進言します。義経はこれを受け入れ、別れを惜しむ静御前を慰めるため、酒宴を開きます。静御前は涙ながらに舞(中之舞)を舞い、義経の無事を祈って別れを告げ、一行を見送ります。

幕間

義経一行は船頭の用意した船で海へ漕ぎだします。一行が瀬戸内海を順調に航行していると、突如として激しい暴風雨に見舞われます。

後場

壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が現れ、その総大将である平知盛の霊が、薙刀(なぎなた)を手に、義経を海に沈めようと襲いかかってきます。義経は果敢に刀を抜いて立ち向かいます。また弁慶も数珠を揉み、不動明王の祈祷(法力)を行います。その法力によって知盛の霊は次第に勢いを失い、やがて波の彼方へと消え去り、一行は危機を脱します。



若衆遊びに入れ込んでいる主人が、太郎冠者、次郎冠者二人の召使いにお気に入りの若衆に手紙を届けるように命じます。

そんな遣いはしたくない二人は、あれこれと理由をつけ何とか逃れようとはしますが、ついには主人の怒りを買うこととなり仕方なく主人の手紙を預かって出かけることになりました。日頃主人の若衆狂いを苦々しく思っている二人のこと、互いに主人の悪口を言い合ったり、近頃の主人の様子をからかったりしながら歩きますが、そのうちふざけて一本の竹に手紙をぶら下げて、二人で肩に担いで持つて行くことになりました。

歩みを進めるうち、ついには手紙の中身を見ようと言い出します。

薪能に参加しませんか

能・狂言に興味のある方 経験は問いません。
新城市の伝統芸能継承にお力をお貸しください。
お問い合わせは下記へお気軽にお電話ください。

新城文化会館

☎0536-23-2122

